

で給食費の支払いをすることができるようにすべきである。

4. 保健・教育・福祉省や経済機会局は、食糧スタンプをうけているものたちに積極的に就職や職業訓練の機会を提供すべきである。
5. アメリカの各家庭が十分な食生活を維持できるまで、現在不備である貧困者の食糧購入に有利な法律を設けるべきである。
6. 栄養障害を起こしている者の保健サービスについて、委員会は以下の緊急対策を要求する
  - ・全国的規模の緊急保健サービス・プログラムの設立
  - ・貧困者援助のため5億ドルの予算の承認
  - ・議会の大統領に対する飢餓根絶のための全権限の付与

また、無料の食糧スタンプ・プログラムについては、市民調査委員会の勧告のみならず、昨年の上院小委員会の審議においても Robert F. Kennedy 上院議員等によって提案されてきたものである。しかし、このために多大な経費を必要とするが、最近10%増税を

断行したとはいえ、ジリ貧状態の社会保障関係予算をもってしては、無料食糧スタンプ・プログラムへの壁はなお厚いではあるまいか。そして世界一の富をほこるアメリカの貧困者救済対策は、今後必要経費のだしおしみをすることがあっては、問題はさらに困難な

事態にエスカレートするばかりであろう。

(*The Christian Science Monitor*, May 15, 18, 27 '68. *U.S. News and World Report*, June 17, '68. *Congressional Quarterly Weekly Report* No. 29, 31, 40)

(藤田貴恵子 国立国会図書館)

### 社会保障こぼれ話

## 社会保障という用語

一般に、社会保障 Social Security という用語は、アメリカで最初に用いられたといわれている。つまり、1934年にアメリカで経済保障委員会 Economic Security Committee が任命され、この委員会の活動で、1935年に社会保障法 Social Security Act が採用された。この法律に用いられたのが、社会保障という用語の使用された最初であるといわれている。その後、1938年には、ニュージーランドが同じ名称の法律を制定しており、とくに、第2次世界大戦後に

は、この名称を用いる法律が各国で採用されている。

ところで、社会保障なる用語が、法律の名称に用いられたのを別とすれば、社会保障という言葉は、1世紀以上も前に、しかも、アメリカ大陸で用いられたことがあるといわれている。つまり、この用語を人道主義的な概念として最初に用いたのは、南アメリカの革命家であり、政治家であり、また、軍人でもあったボリヴァル Simon Bolivar (1783—1830年)であったといわれる。

ボリヴァルはヴェネズエラに生れ、スペインで教育を受け、革命が起きたときには独立軍に参加して、指揮をとっていた。独立に失敗し、国外に逃れて後、再起してヴェネズエラ、コロンビア、

(14頁へつづく)

る。ドイツでは6週間賃金の全額が支払われ、7週目から75%となるが、そのほかに子のある家族には手当がある。フランスではまた疾病保険の自己負担分が相当上げられたほか、疾病の際の費用は一応自分で払って、後払いを受けることになっている。

フランスの老齢年金はドイツに比べてかなり低く、退職前数年間の収入の最大40%にしかならない。最高340DMに限られている。このほか実質賃金の比較に当たって、住宅事情が著しく悪いことも考慮しなければならない。

フランスの労働組合の抗議はさらに、一般労働者と高い地位の職員層との収入の差が、イタリアほどでないにしても、非常に大きい点にもある。ドイツはこれに比べてこの差はそれほどでなく、被用者の平均年収は、総支配人とか主任技師まで含めて、1967年にフランスでは14,000DMに達しており、ドイツの11,500DMより2,500DM多く、したがってフランスの高級職員の収入はこの平均値をずっと上回っている。さらにフランスでは高級職員の数（イタリアはさらに基だしいが）、ド

イツより多いのである。

(Frankfurter Allgemeine Zeitung, 7. Juni

(9頁からつづく) エクアドルを相次いで独立させ、その業績により「解放者」El Libertador と呼ばれている。ついでながら、流血の独立運動に成功し、偉大なる解放者として尊敬されたボリヴァルの名前は、1825年に形作られたボリヴィア共和国やヴェネズエラ国の通貨ボリヴァールに、記念として現在でも残されている。一度失敗してハイチに逃れたボリヴァールは、再起して1819年にヴェネズエラに上陸しているが、同年2月に新しい民主的な政府の樹立を目指し、かれを取りまく聴衆を前に演説した。政治的にも、経済的にも独立し、真の民主的な政府の樹立を目指すかれの言葉の中で、新しい政府の在り方について述べている。

「最良の政府というものは、最大の福祉、最大の社会的安堵 social security, および最大の政治的安定をもたらすものである」

アンゴストラ Angostura で行なわれた、かれの演説の中に、いみじくも、社会保障 social security という用語が用いられていたが、この用語の中には、すでに、今日の社会保障と結

1968)

(安積鋭二 国立国会図書館)

びつく概念が含まれていた。そして1世紀以上を経て、アメリカで社会保障法という形となり、装いを新らしくした近代的な社会保障の概念が育ってくることになった。

ボリヴァルの演説の中に、social security という用語があったからといって、かれが今日の社会保障という概念を把握して、この用語を使ったものでないのは、もとより当然なことである。かれが用いたのは、スペイン領アメリカがスペインの属領として、桎梏のもとに置かれていたという背景に基づくものである。すなわちかれは政治的にも、経済的にも、また、社会的にもスペインの支配を脱して、新らしく樹立される政府が、市民に幸福な生活を与えるものでなければならないということを示したのであって、今日、われわれが考えるような経済的な不安の除去は、まず、独立の達成からということであった。

いずれにしても、かれの言葉に social security がはいっていたのは面白い。

(平石長久 社会保障研究所)